

C 2 1 4

日米首脳演説比較、 —離散値系ウェーブレット多重解像度解析—

井波 真弓[○](白百合女子大学), 齋藤 兆古(法政大学), 堀井 清之(白百合女子大学)

Speech Comparison between the Japan and U.S. leaders —Discrete Wavelets Multi-Resolution Analysis— Mayumi INAMI, Yoshifuru SAITO and Kiyoshi HORII

ABSTRACT

Three elements "Will", "Fact" and "Judgment" in speech of the Japan-U.S. leaders were examined by the discrete wavelets multi-resolution analysis. As a result, it has been clarified that both curves of "Will" shows the similar tendency and these of "Judgment" shows the different tendency. In Policy Speech, Prime Minister Shinzo Abe tends to show his leadership as a new leader by expressing his "Will" and "Judgment". On the other hand, in State of the Union Address, President George Walker Bush emphasizes his agreements of legitimacy and demands an agreement of the present policy by quoting "Fact" repeatedly as the president accomplishing on second term.

Keywords: Discrete wavelets multi-resolution analysis, Will, Fact, Judgment

1. 緒 論

本稿の目的はウェーブレット多重解像度解析を用いて安倍内閣総理大臣施政方針演説¹⁾とブッシュ大統領の一般教書演説(State of the Union Address)²⁾の揺れを検証することである。

安倍晋三(1954年～)は第三次小泉改造内閣にて内閣官房長官を務め、2006年9月に第90代内閣総理大臣に任命された。2007年1月26日には、第166回国会において第1回目の安倍内閣総理大臣の施政方針演説が行われた。施政方針演説は例年一月下旬に行われる国会の常会開会式の後に行われ、演説に対し各会派を代表する議員との質疑応答が繰り広げられる。

ジョージ・ウォーカー・ブッシュ(George Walker Bush, 1946年～)は、2001年1月アメリカ合衆国の第43代大統領に就任し、現在2期目である。ブッシュ大統領による第6回目となる一般教書演説が2007年1月23日、上下両院合同本会議で行われた。アメリカ大統領による一般教書演説は、現在アメリカが置かれている状況とその年を通じた内政・外交の施政方針を上下両院に説明するもので、日本での首相の施政方針演説に相当する。しかし、大統領は議会に議席も持たず、法案提出権も持たないため、この一般教書演説が自身の考えを議会に提示できる大きな機会となっている。

内閣総理大臣および大統領演説は国内外から注目が集まり、分析・検討の対象となっている。政治の見地からだけでなく、言語学の視点から、文法、談話³⁾やさまざまなレトリック⁴⁾の研究がなされ、引用⁵⁾もレトリック

の重要な要素の一つであるにとらえられている。また、コンピュータによる計量的解析⁶⁾などが行われている。しかし、演説における揺れについての研究はいまだ行われていない。そこで、本研究では日米の演説の揺れを可視化し、その違いを考察する。

2. 解析方法

2.1 解析対象

安倍内閣総理大臣は、戦後レジームの見直しや教育再生を課題とし、美しい国の実現基盤として経済が不可欠だとしている。演説には以下の9つの項目を設けている。数字は筆者による。

1)はじめに、2)成長力強化、3)「チャンスにあふれ、何度でもチャレンジが可能な社会」の構築、4)魅力ある地方の創出、5)国と地方の行財政改革の推進、6)教育再生、7)「健全で安心できる社会」の実現、8)主張する外交、9)むすび。

ブッシュ大統領は、前回5回までは強気的外交政策が目立ったが、今回は、順調な経済状況や福祉政策の充実など内政についても言及するようになった。演説内容は、以下の12に分類した。分類、数字とも筆者による。

1)はじめに、2)経済、3)教育、4)健康、5)出入国管理、6)エネルギー、7)裁判、8)テロ、9)戦争、10)外交戦略、11)外交政策、12)むすび。

2.2 要素の選択と方法

1. 演説の構成を経時的に考察するために、「意志」「事実」「判断」を要素として選び、項目ごとに文章の数を調べる。公約や将来への政策は「意志」、出来事や引用は「事

実」, また, 考えや説明は「判断」とする. Table 1, 2 は要素を示す.

2. 得られたデータに離散値系ウェーブレット変換の多重解像度解析を適用^{7)・8)}する.

Table 1 Selected Element of Policy Speech by Prime Minister Shinzo Abe

要素	事例
第1要素「意思」	…安心な地域医療を確立します.
第2要素「事実」	…初の有人飛行に成功しました.
第3要素「判断」	…船出をすべきときが来ています.

Table 2 Selected Element of State of the Union Address by President George W. Bush

要素	事例
第1要素「意思」	We will continue to speak out for the cause of freedom….
第2要素「事実」	…the number of people receiving life-saving drugs has grown from 50,000 to more than 800,000….
第3要素「判断」	…it is our duty to keep them permanently sound.

「意思」, 「事実」, 「判断」の要素にベクトルの概念を用いる. 「意思」を基準ベクトルとして, ベクトルをグラムシュミットの方法によって全て直交化し, 重複要素を除く. さらに直交化されたベクトルを単位ノルムに正規化する. 正規化されたデータにウェーブレット多重解像度解析を適用する. 本研究では基底関数は演算処理の意味が把握できるドビッシーの2次を採用する.

2のべき乗 n の要素からなる n 字のデータベクトルを Y , ウェーブレット変換行列を W とすればウェーブレットスペクトラム S は次式で与えられる.

$$S = WY \quad (1)$$

ウェーブレット多重解像度解析は, レベル1はスペクトラム行列 S の第1要素のみを残し他の要素をゼロとしてウェーブレット逆変換式 (2) で得られる^{7)・8)}.

$$S' = \begin{bmatrix} S_0 \\ \vdots \\ S_n \end{bmatrix}, \quad D_0 = W^T \cdot S' \quad (2)$$

3. 結果と考察

3.1 解析結果

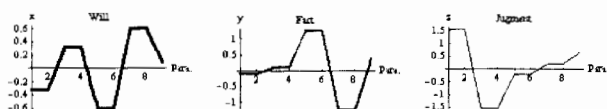


Fig. 1 Level 4 of the discrete wavelets multi-resolution analysis: elements of "Will", "Fact" and "Judgment" in speech of Prime Minister Shinzo Abe.

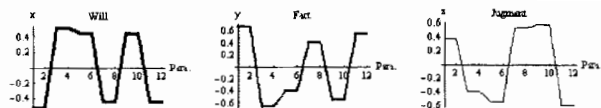


Fig. 2 Level 4 of the discrete wavelets multi-resolution analysis: elements of "Will", "Fact" and "Judgment" in speech of President George Walker Bush.

まず, Fig. 1 のレベル4は安倍内閣総理大臣の演説を8分割した場合である. 「判断」は, はじめの部分に大きな揺れがあり, 「事実」は後半に, また, 「意思」における2つの揺れは「判断」と「事実」の後にそれぞれ見られた.

次に Fig. 2 はレベル4でブッシュ大統領の演説の場合である. 「判断」は, はじめと後半が多い. 「事実」は, はじめ, 中盤, 終わりと3箇所が多い. 「意思」は前半と後半の2箇所で多くなっている. 「意思」と「事実」には相反する傾向が見られた. 前半は「事実」と「判断」, 後半は「意思」と「判断」に同じ傾向が見られた.

Figs. 1-2 から, 「意思」の描く曲線には同じ傾向が見られた. ブッシュ大統領には「事実」を積極的に利用している傾向が見られ, また, 「判断」は「意思」と「事実」を挟んだ曲線となっている.

4. 結論

- ①「意志」の描く可視化曲線は両者とも前半と後半に揺れが現れた.
- ②安倍内閣総理大臣においては, 要素の緩やかな配置が見られた. はじめの「判断」に大きな揺れが見られ, 全体としてリーダーシップを発揮しようとする傾向があることが明らかになった.
- ③ブッシュ大統領の演説においては「事実」と「判断」の配置に細かい工夫がみられた. 「事実」を重ねることによって現在とられている政策の正当性を強調し, 政策続行の同意を求めていることが検証された.

参考文献

- 1) 朝日新聞 (夕刊), (2007. 1. 26) 4面
- 2) <http://www.whitehouse.gov/news/releases/2007/01/20070123-2.html>.
- 3) 中村秩祥子: 内閣総理大臣演説の文体分析——鳩山首相から大平首相について, 竜谷大学国際センター研究年報, Vol. 13, (2004), pp. 37-68.
- 4) 村上直久: ブッシュ米大統領の2004年一般教書演説のディスコース分析, 長岡技術科学大学言語・人文科学論集, Vol. 18, (2004) pp. 159-178.
- 5) 中村秩祥子: 大統領就任演説内の直接引用の機能と効果, 英語英米文学研究, 龍谷大学, Vol. 33, (2005) pp. 42-61.
- 6) 沖博美 他: 初期・現代のアメリカ大統領就任演説の計量的解析と社会情勢の関係, 電子情報通信学会技術研究報告. ET, 教育工学, 社団法人電子情報通信学会, vol. 99, No. 581 (2000), pp. 25-32.
- 7) 齋藤兆古: ウェーブレット変換の基礎と応用—Mathematica で学ぶ, 朝倉書店 (1998) p. 39, pp. 93-95.
- 8) 堀井清之, 齋藤兆古: 特許「文学作品解析方法および解析装置」, 特願 JP10-102673A.